

I T 技術の進化は日進月歩 縦長画面ならではの価値創出へ

10月28～30日に幕張メッセで開催された国内最大級のI T 専門展「Japan IT Week 秋2015」において、LINE元社長でC Channelの代表を務める森川亮氏が「ソーシャルメディアの進化と動画メディアの今後」と題して特別講演を行った。

森川氏は今年4月にLINEの社長を退くと、アイスタイルやグリー、楽天などから5億円を調達して起業し、動画プラットフォーム「C Channel」を立ち上げた。

「C Channel」では、約100人のモデル・タレントが自撮りしたり、プロのカメラマンが撮影したものを、その後にプロが編集し独自性の高い動画を配信。動画の長さは1本1分で、店舗やスポット、商品特徴に絞って、日本のファッションやメイク、ヘア、フード、トラベルなどの情報を紹介している。

これまでの日本テレビ、ソニー、LINEと放送・ネット両方のメディアでの経験を踏まえ、自分がやるべき領域として「世の中にないもの」を模索し、たどりついた結論が「今後主流となるスマートフォンでの閲覧を想定した、クオリティーの高い縦長サイズのショートタイム動画のプラットフォームの立ち上げだった」と森川氏は語る。

クオリティーの高い縦長のショートタイム

動画は、今後ますます導入が進んでいくことが期待されている「デジタルサイネージ」との親和性も高く、そのニーズは計り知れないという。

森川氏の特別講演を聴講し、世の中では急速にスマートフォン（縦長画面）への対応が進んでいることを改めて思い知らされるとともに、PCからスマホへのシフトがBtoCはもとより、BtoBでも急速に進んでいくのではないかという認識を強くした。

つまり、単にスマートフォンに最適化させるといった消極的な対応ではなく、スマートフォンだからこそ表現できるといった要素を盛り込んでいくことが、縦長コンテンツが勢いを増すこれからの時代を生き抜いていくうえで、1つのポイントになってくるだろう。

また、1つの新しいビジネスを完成形まで持っていった人物は、発想力が常識を飛び越えており、新たな取り組みを成就させようという並々ならぬ意志を持っているということにも気づかされた。

これからの時代を生き抜いていくためには、「常識を飛び越えた発想」ができる環境を整えていくとともに、その発想を「成就させようという強い意志」を持つ人材を1人でも多くつくっていくことも必要と言えそうだ。🎧